

平成27年度 第2回 諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議

開催日時	平成27年7月29日（水） 14：00～16：00
開催場所	諏訪市役所第1委員会室
出席者	<p>【諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員】</p> <p>柳澤慶子委員、中嶋博美委員、宮坂友子委員、岩波寿亮委員、宮坂勝太委員、今井高志委員、青山正博委員、平尾毅委員、藤沢晃委員、林直樹委員、山崎三千代委員、佐久秀幸委員、金子ゆかり委員</p> <p>【諏訪市まち・ひと・しごと創生本部】</p> <p>平林隆夫副市長、小島雅則教育長、関基総務部長、河西秀樹企画部長 伊藤幸彦市民部長、土田雅春健康福祉部長、飯塚隆志経済部長、竹内桂建設部長、湯沢広充会計管理者、宮下隆水道局長、河西一浩教育総務課長（代理出席）、柿崎茂議会事務局庶務係長（代理出席）</p> <p>【事務局】</p> <p>木島清彦企画調整課長、前田孝之企画調整係長、河西俊明企画調整係主査、牛山智哉企画調整係主査、小松智恵企画調整係主任</p>
【次第】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委嘱状交付</li> <li>3 市長挨拶</li> <li>4 委員自己紹介</li> <li>5 報告事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 諏訪市の人口動向分析（第1回有識者会議補足資料）について</li> <li>(2) 住民意識調査結果（速報版）について</li> </ol> </li> <li>6 協議事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 諏訪市人口ビジョン（案）について</li> </ol> </li> <li>7 意見交換</li> <li>8 その他</li> <li>9 閉会</li> </ol>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会 河西企画部長より開会宣言があった。</li> <li>2 委嘱状交付 金子市長より藤沢晃氏、青山正博氏、林直樹氏へ委嘱状が交付された。それぞれ異動に伴い、藤沢氏は松田氏から、青山氏は油井氏から、林氏は丸山氏から交代した。</li> <li>3 市長挨拶 (金子市長) 皆様こんにちは。本日は第2回目の有識者会議ということで開催させていただきたい。第1回目の有識者会議においては、様々なご意見やご提言をいただき、ありがとうございました。本日の有識者会議では、第1回でお示した人口動向分析の補足資料に加え、6月に実施した住民意識調査の結果を報告する。その上で、本日の議題である諏訪市の将来の人口推計、人口目標値を示す諏訪市人口ビジョン（案）についてご意見をいただきたい。国の長期ビジョンでは、2060年（平成72年）人口1億人を維持するということになっている。諏訪市においても独自に人口目標値を設定し、これを達成するために必要となる基本的な方向性を定めていくということで進んでいきたいと思っている。委員の皆様からは</li> </ol>

様々なご意見やご提言を前回同様、忌憚ないところをお聞かせいただきたいと思いますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

#### 4 委員自己紹介

藤沢晃副会長、宮坂友子委員、青山正博委員、林直樹委員、佐久秀幸委員からそれぞれ自己紹介があった。

なお、北陸信越運輸支局の坂内陽子氏、明治大学政治経済学部の牛山久仁彦氏の2名は都合により欠席となった。

(金子市長)

報告事項に先立ち、定足事項の確認について事務局からお願いしたい。

(事務局)

有識者会議委員15名のうち13名出席につき半数以上に達している。以上より、本日の有識者会議は定足数の要件を満たしていることを報告させていただく。

#### 5 報告事項

報告事項(1)について、資料No.1に沿って事務局から説明があった。

(金子会長)

質問等のある方は挙手をお願いしたい。

(A委員)

5ページの資料「諏訪6市町村の社会増減」には、平成19年(2007年)以降、パラレルな動きがみられない、連動性が薄れてきたというコメントがあるが、この原因は何か。

(事務局)

要因までは探れていない状況である。

(金子会長)

他に質問はどうか。それでは進行する中でまた何かあれば伺っていくことにする。次に、(2)住民意識調査結果について事務局から報告をお願いしたい。

報告事項(2)について、資料No.2-1、2-2、2-3、2-4に沿って事務局から説明があった。

(金子会長)

ただ今の報告について質問、意見を伺いたい。印象に残ったポイントなど含めてどうか。

(B委員)

資料2-4の5ページで、農業に就職しても良いという回答が上位に入っていて少し驚いた。この資料をみると原村の人口は横這いで増えてもいない。これは、高齢者の就職率が高いことにある。もちろん農業は自分が死ぬまで働けるという部分もあるかと思う。したがって、そういう部分もどこかで取り入れていくことが、魅力ある諏訪市につながると思っている。もう一つ、傾向として若い人たちは、ある程度都会にあこがれる。アンケート結果では松本市が非常に人気がある。そうすると、この圏域というのは、松本市くらいの規模を目指すというのが一つの目安と感じた。

(C委員)

感想みたいな話になるが、地方創生では、諏訪市が岡谷市や茅野市に勝つというような発想をどう捉えたら良いのだろうと思っている。諏訪広域が都会からいかに人間を呼び寄せられるかをどう進め頑張れば良いのか分からないが、20万人の諏訪広域をいかに維持し活性化するかという発想であって、茅野市に勝つとかいうのはあまり意味がない気がする。諏訪市の会社に就職したけれども、茅野工場に転勤になった人達もいると思うし、諏訪地域の中であれば許せるという感じがする。だから、発想は、都会からどうやって人を呼び寄せて諏訪地域の人口を増や

し、維持するかということになる。先程の転出転入では、岡谷市や茅野市との比較の中で、結婚によるものがどの程度あるのかが分からないと意味がない気がする。諏訪市の男性が、茅野市の女性と結婚すると茅野市の女性が諏訪市に入ってくる、逆の場合は、茅野市に行くというのが含まれているので、それだけで数字を言っても仕方がない気がする。都会が相手であって、都会の人達を呼び寄せる。あるいは都会の大学に行った人に確実に諏訪地域に帰ってきてもらう。それは諏訪市じゃなくて諏訪広域ということで考えてもらわないといけない。あまり諏訪市、茅野市、岡谷市で、と考えるとどこかピントがずれてしまうと思う。

(金子会長)

わたしも 6 市町村全体での総合戦略プランを立てられないかという思いで提案をした。しかし、作るとは可能だが、今回の国のプランにおいて、広域で作ったプランに対しての資金、補助金等々の受け皿が無い。共通の課題を戦略の中に盛り込んで対応できるということは可能性としてまだ残しているが、各市町村で戦略を立てることにおいて、まず人口ビジョンを策定する必要がある。その人口ビジョンに従って、その目標を達成するために施策をどうするかという形でこの議論は進んでいく。本日のこの会議は、その中で諏訪市の人口ビジョンをどう設定するかというところにつながる。人口ビジョンができた次に、どんな施策で 6 市町村圏域の目標を達成していったら良いか、政策、施策、事業関係の検討のときに提案をいただければと感じている。他に子育て関係ではどうか。

(D 委員)

2-1 の資料の 4 ページで、やはり子どもを育てていく中では、若い人達の収入が非常に少なく、これから子どもを産んでいこう、生活していこうという部分では大変だと感じた。今、諏訪市では、出産費用をどの程度負担しているのか。わたしが出産した頃は、病院に健診に行ったお金も全部は補助がなかったと思うが、今は補助が出ていて負担は減っているのか。

(金子会長)

出産費用は一律 42 万、第 2 子、第 3 子の出産は金額が違うと思うが、事務局から願います。

(事務局)

今、申し上げた 42 万円は、国民健康保険加入者に対しての補助になる。社会保険加入の方は、会社の方でそれに対してさらに上乘せがあるケースもあると思うが、6 市町村だけではなく、ほぼ全国的に同じ金額である。あとは政策的にプラスがあるかということになっている。

(金子会長)

詳細については、必要があれば資料を出すようにする。今日の議論は、諏訪市の人口の将来設計をどうするかということで議論をお願いしており、今の質問は大事な視点だと思う。要するに若い人達の収入が厳しいと、出産の数が、3 人欲しいけど 2 人止まりになってしまうということだと思う。この論点ではどうか。

(E 委員)

一つ気になったところがある。資料 2-1、8 ページの間 11 だけ、なぜ聞き方が「少子化に歯止めをかけるため」という前置きが出てきたのか。実際に産み育てるお子さんの数が、理想より少ないのはなぜかと聞いているところで、大学の費用の話が 1、2、3 位に入っているが、間 11 の聞き方が少子化という前置きになってしまっている。県や市町村の施策に何を求めるかというところでは、保育料の養育費の話になっている。ここで大学の話はなぜ出てこないのか。

(金子会長)

質問の設定の仕方、何か意図があってこういう聞き方になっているのかということで良いか。

(事務局)

ご指摘のとおり、少子化に歯止めをかけるという前提になっているので、保育園などに引きずられる部分も多々あったかと思う。この設問の中には、保育料のほかに教育費という部分も入っているので、小さいお子さんだけでなく全般的な教育にかかる費用についても軽減措置が欲しいといった意見も入っているかと思う。

(E委員)

保育料の費用も大学の費用も全部括ってしまったということか。

(F委員)

回収率が36.4%ということで、もう少し皆さんの意見聞きたかったというのが正直なところだ。わたしも、200~400万円の年間収入で子育てしていくのは難しいということを皆さんに知ってもらいたいと思った。

(金子会長)

様々なご意見をいただいた。諏訪市の人口ビジョンをどう作るかというところがある程度目標が定まったあとに、どんな政策でその目標を達成しようかという議論に進んでいくが、そのときに、皆さんから有効な意見がいただけるのではと感じている。進行もあるので、次の協議事項に移らせていただく。協議事項(1)諏訪市人口ビジョン(案)について、事務局から説明をお願いします。

## 6 協議事項

協議事項(1)について、資料No.3に沿って事務局から説明があった。

## 7 意見交換

(金子会長)

分からなかったことや確認しておきたいことがあればお願いしたい。わたしの方から、純移動率をもう1回解説して欲しい。

(事務局)

純移動率は、人口の総数に対する5年間の転入転出による社会増減数の比率である。先程の説明資料の中で、社人研については、2005年から2010年の国勢調査による人口の移動の増減の率を出し、その率に基づいて今後の人口移動を推計している。社人研推計は、純移動率の幅が段々縮小してくる形になっている。つまり、諏訪市は転出超過になっているが、その転出の幅が段々縮小してくるだろうという推計をしている。一方で創成会議の推計では、純移動率は今と変わらない。つまり、諏訪市で言えば今後も転出超過の状態が続くであろうという前提で推計をしている。そこで諏訪市の独自推計については、純移動率の幅をゼロにしたいという仮定をしている。一方で、ゼロにするだけではなくて転入者を増やしたいので、5年間で10人の転入者を確保したいといった目標を立てている。

(金子会長)

純移動率というのは、人口に対する5年間の社会増減数の比率という定義。他に質問などお願いしたい。

(B委員)

この目標を達成するというのは、国のビジョンが基本になっていると思う。国の長期ビジョンが厳しいものなのか、あるいは、国が一転努力をすれば確保できるということになれば、諏訪市の上乗せは素晴らしいことだと思うが、この辺の見解はどうか。

(事務局)

国の見込みが厳しいかどうかということは難しい質問。ただ、国の長期ビジョンの中では、他の先進国の事例を出していて、例えば、フランスは1993年に出生率が1.66まで落ちたが、出産育児の支援や就労の支援に取り組み、約20年後の2010年には2.0まで回復をしたということだ。また、スウェーデンでも1999年に1.50まで出生率が落ちたが、様々な社会保障の拡

充によって、2010年には1.98まで回復したということだ。国によって制度、背景の違いは当然あるが、こういった例もみて、国は合計特殊出生率2.07という数字を目標にしているということだと思う。また、2.07は人口置換水準であり、この出生率を維持できれば出生・死亡の人口バランスがとれる。人口は増えはしないが維持できるという出生率が2.07である。

(金子会長)

諏訪市の人口目標を2040年(平成52年)、25年後に4万3千人、45年後に4万人と設定したいというのが案である。人口分析による現状と課題の整理、人口目標値の妥当性、人口目標値を達成させるために取り組む基本的な方向性など説明をさせていただいたが、これについてご意見をいただきたい。

(A委員)

人口ビジョン(案)の21ページは、自然増と社会増を同時に推進する戦略が必要だということでもとめられていて、次のページで方向性1から4までであるが、1から4すべてをパラレルでやるという理解で良いか。

(事務局)

最終的には、もう少し細かくビジョンを作っていかなければいけないと思うが、この4つの方向性をパラレルにやり、全てを総合的にやっていく戦略になっていくと思う。

(A委員)

そこはどうかと疑問がある。それだけの体力、余力があるかということがまず一つ。資料2-2の6ページ、問13-1、「子どもを産み育てる環境が整っているを選んだ方のみお答えください。当てはまるものすべてに○をお願いします」では、祖父母に助けられている人が多い。両親と住んでいる人の割合が高い。問4の結果では、二世帯同居が47.5%もある。実は、前滋賀県知事の嘉田由紀子さんの仮説がある。「地方は人口は多い、都市部は人口は減る」ということだ。地方が多いのは、いざというときに子どもを預ける場所が確保されている。つまり、親と住んでいる割合が高いからだと言う。都市部はなぜ低いかと言うと、その逆で、核家族が多い。子どもを預けるにも待機児童の問題などがあり子どもを預けられない。そうするとお母さんは働きに出られない。所得を上げられない。二人目、三人目の子どもを欲しいと思っても経済的に余裕がないからできないということが都市部では起こる。だから、本来、地方のほうが子育てしやすい環境があるので人口増につながるというのが彼女の自説だ。このデータをみると、諏訪市でまさしく合計特殊出生率が高い背景にはそういった関係があるのではないかと思った。そうすると、まずは社会増として人口を呼び戻す。人口20万人を諏訪地域で取り戻すという策を打つことが重要だ。自然増は、この二世帯同居でなんとか維持しながら、まずは思い切った社会増を狙って動く。そのために何が重要かと言うと、資料2-4、3ページだが、どうして住みたくないのかと言うと、「魅力あるイベントがない」とか、「都会に魅力があるから」となっている。若いから刺激を求めて行くのは仕方がないが、深刻な問題は三番目の「働きたい会社が無いから」だと思う。これはなんとかしないと、彼らを呼び戻したくても呼び戻せない状況になる。ネオン街を作れば良いというわけではなく、まずは彼らが働きたいと思うような雇用を作り出すことが先決かと思う。そう考えると、先程の方向性も、すべて同時にやるにはマンパワー的にも資金的にもかなり厳しいので、1市町村の問題ではなく6市町村みんなでやらなければならないということもある。本来であれば思い切った社会増を狙っていくような経済政策とか企業の誘致も含めた雇用の増進を、例えば広域で図っていくとか、そういったことに着手をして、まずは社会移動を増やすことが重要だ。ただ、社会移動が増えると何が起こるかと言いつと、二世帯同居がないとやはり預ける場所がないということになる。実はヒアリング調査をしたことがある。仕事がありこちらに来るが、それは単身赴任になってしまう。お父さんだけになる。子どもやお母さんも一緒に来るとなると、そこで生活できる基盤がないといけ

ない。子どものためにきちんと学校があるか、お母さんが買い物できるかということが整備されていることが大事ということが結構あった。その点で言うと、諏訪地域における一次商圈として諏訪市があるので、そういう強みを活かしながら、どうにかして社会増にする。彼ら彼女たちがここで働きながら生活し、居を構えても良いというような施策を打って、今度はうまく自然増につなげていくという形で、優先順位をつけていかないといけない。全て同時にやると、どれも中途半端に終わってしまって結局目標を達成できなかったということになりかねないというのが危惧するところだ。

(金子会長)

大変貴重な話でありがたい。今日、承認をいただく大事なポイントは、今回のこの人口ビジョン、人口推計が妥当であるかということだ。その承認を得るために質問、意見等あればお願いしたい。各市町村、例えば合計特殊出生率の推移がどうなるのか、その数字の設定の仕方によって将来の目標数値というのは変わっていく。諏訪市は、6市町村においては中心地、地理的には真ん中にある。それから人口は6市町村圏内においては茅野市と諏訪市の移動が多いが、3分の1くらいは6市町村の中からの移動である。合計特殊出生率については1.64が現状で、今後、若干上げていく。そして一定のところから同じ数値、国と同じように数字は置いたままとしてできた2060年に4万人という目標だ。これを変えてはいけないということではない。議論を進めていく間に修正がかかっても構わないが、当面この目標数値を置いて、議論していきたいがどうか。

(G委員)

この数字が良いかどうかということも確かにあるが、合併が破綻になった後は、それぞれの市町村が独自の道を歩むために色々な施策をこの間長くやってきた。ところが、なかなかうまくやっていけないことがあって広域の問題が出てきたということだ。結婚して出産することについて、そういう機会がないとか、積極的にならないというような理由がいくつかあったが、わたくしどもの会社でも、婚活の色々な機会を与えていくということに取り組んでいる。収入が少なくてなかなか子どもを産めないという状況があり、過日、公務員だけの婚活でハートリンクパーティーをやった。すると、男性の30人のところに女の人が40人も50人も来る。やはり、安定した収入があって安定した結婚生活をしたいというような表れだと思う。わたしも主催をする側から全部をみていると、女性の方のレベルが高くて、男性の方のレベルがついていけないというような状況がある。そういう状況があって、結婚をするといっても収入だけの問題ではなく、やはり女性の意識が高くなってきているという状況があるのだろうと思う。

今この諏訪地方を含めて赤字法人が78%くらいある。仕事に対してワークライフバランスをきちんとしているということがないと、女性の皆さん方が働くに働けないということがある。78%の赤字法人がある中で、ワークライフバランスをきちんとするためには、経営者の意識もそうだが、雇用も大変厳しい状況があるのだろうと思う。もう一つ、地元に戻って来るといっても、必然的に都会から田舎に戻ってくる。戻って来るといっては、先程の話もあるが、例えば、日本から世界へ行ってそこで生活してみたいとか、あるいはホームステイをしてみたいというようなアンケートをとっても、男性の高校生はほとんどいない。女性の高校生ばかりが、海外へ行って短期でも良いからホームステイをしてみたいという。いわゆる冒険力というのが男の方がどんどん薄れてきているということも一つあるのだろうと思う。そして、ワークライフバランスのことを言ったが、両親がいてそこで生活をしていて安心をして働けるという要素もあるが、企業もそういうことについて充実するような地域でないとう出生率は上がってこない。そして結婚する率も上がってこないということになると思う。この数字を目標値として設定することに全く異存はないが、今言ったようなことはきちんとしていかないと、この目標は多分達成はできない。今は6市町村それぞれが独自の道を歩んでいる。そこでどのように生

活していったらいいかというのをそれぞれが作り出し、半ば完成しつつあるというような状況だ。全体の中にどう取り組んで行くかということをも6市町村で真剣に考えていかないと、一つひとつの達成もできないと思う。

(金子会長)

今後の議論の核心に関係する話だと思う。他にどうか。

(H委員)

わたしは東京出身で、東京から見ると諏訪といえば諏訪市というのは最初に頭に浮かぶ。ただ、例えば諏訪インターというのは茅野市との境にあり、やはり広域という意味では、茅野市、諏訪市といったところを競い合っても仕方ない。広域で考えてというのに非常に意味があると感じた。高校生が定期を使って列車で移動するのが、かなり地域の交通のウエイトを占めている。そういった人がいなくなるということは、地域の交通というものも将来どうなっていくのかと見えづらくなる。やはり若年層をどこかから連れてくるということよりも、全体のパイを上げるということが必要なのではないか。子どもが産まれたときの費用に関して、産婦人科に行ったときに自己負担というものがある。それが後で保険の方から返ってはくるが、地域を挙げて、国を挙げて、特に若年層を増やすための努力をしていくということが人口を増やす一番ではないか。

(金子会長)

予定された時間が迫ってきた。まだ発言いただいている方はどうか。

(I委員)

この目標の数値を今日出さなければいけないということだが、結局、それを決めた上でどういった施策が良いのかというのを皆で話をしていけば良いのかと思う。様々な立場で人それぞれ考え方は違うと思うが、目標数値としてどうかということであれば、わたしは良いと思う。

(J委員)

数字について妥当かどうかと言われると正直なんとも言えないというのが本音だ。ただ、創成会議の推計がかなり現実的なのだろうと思う。今何もしないでいたらこうなってしまうという現実的な数字だと考えると、諏訪市の独自推計というのは、それに比べ割合では半分くらいのところになってきている。頑張らないと駄目だという意識はこれで付く。具体論的な部分はこれから出てくると思うが、4つ方針を定めていく中では、やはり優先順位をきちんとつけていかないと全部同じ力の入れ具合でやってしまうと、どれもが中途半端で終わってしまうのではないか。

(K委員)

まず、人口目標値はあくまで戦略目標なので、4万人でも5万人でも掲げ、そこに向けて何をするかということを考えれば良いと思う。女性にヒアリングすると、今の20代の女性は早く結婚したいという方がかなり増えている。結局、仕事か結婚かの二者択一ではなくなったので、支援策が多いことは、これから女性の出生率上昇につながると思う。ただ一つ、若い世代の結婚子育て支援で、子どもがいない家庭と子どもが多い家庭、両方の立場に立って聞くと、子どもがいない人にしてみれば、何で第3子、第4子は無料にするんだという話もある。これについて、人間一人あたりの経済効果、ゆりかごから墓場までいくと一人の人間は何億円の経済効果があって、だからこれだけ支援するというものがあると良いと思う。以前は、働いていない女性、主婦は肩身が狭いという時代もあったが、今度は逆にお子さんが多いと肩身が狭いとなるかもしれない。そこを数字として人が一人生きていくといくらのGDPが生まれる、だからこの方たちに支援するという形にすれば不公平感がなくなり、明確になると思っている。

(金子会長)

それぞれ大変ありがたい意見を頂戴した。それでは、本日の(1)諏訪市人口ビジョン(案)

について、ご承認いただける方は挙手をお願いしたい。

(全員挙手)

(金子市長)

それではこれを諏訪市のこれからの総合戦略の目標値として議論を進めていくことにする。決めたからと言って、この数字は絶対変えてはいけないということではない。議論の中で柔軟に対応する余地も残っているのでご了解をいただきたい。大変貴重な意見をいただいたことに感謝し、今後の総合戦略策定に皆さんの意見を参考にさせていただく。

それでは以下の進行を河西企画部長に戻したい。

(河西企画部長)

委員の皆様には、協議また意見交換いただきありがとうございました。それでは、その他ということで、事務局の方からお願いしたい。

8 その他

今回の会議日程について、事務局から説明があった。

9 閉会

(藤沢副会長)

本日はお忙しい中、本当にご苦勞様でした。先程何名かの委員から数字について議論することはあまり意味がないのではないかとあった。わたしも全くその通りの感想を持っている。創成会議の数字は、このままの状態が続けばそうなる数字だということだが、おそらく創生会議の数字というのはあり得ない数字ではないか。というのは、資料にも入っているが、若者がいないと、行政サービスも民間サービスも提供できないレベルになってしまう。そうならないように、次回以降、わたくしも含めしっかりと勉強し、また良いご提案ご意見をお願いしたい。本日はお疲れ様でした。

(河西企画部長)

河西企画部長から閉会宣言があった。

以上